

秋建時報

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋建時報

平成24年12月1日(第1223号)



発行／(社)秋田県建設業協会

秋田市山王四丁目3番10号

TEL 018(823)5495

FAX 018(865)2306



絵 白澤 恵舟

「山眠る」

山は、紅葉から冠雪に衣替え。そろそろ「山眠る」の季節に入るが、冷たい風と急な降雪に山もなかなか眠りにつけないでいる模様。

去年の暦によると、私は「個性を発揮して気運上昇」とあった。

先日届けられた好日曆に目がゆくのも年末だからか。

秋田県建設雇用・構造改善推進大会

建設雇用改善優良事業所など表彰

11月16日、秋田ビューホテルで秋田労働局、秋田県、(一社)秋田県建設業協会主催による平成24年度秋田県建設雇用・構造改善推進大会が開催され、関係者100人余りが参加した。

大会は二部構成で進行し、第一部は「助成金・企業支援制度説明会」が行われ、秋田労働局、秋田県の各担当者が各種助成・支援制度の紹介・説明。第二部では表彰式が行われた。

大会第二部では冒頭、主催者として坂本忠行秋田労働局長が挨拶し、「建設業界は本県の経済、雇用を支える上で重要な役割を果たしている。先ごろ高年齢者雇用安定法が改正されており、

定年後の雇用確保や新規卒者の雇用確保に協力していただきたい」と述べた。また、次に登壇した村岡淑郎会長は「全国で甚大な自然災害が発生しており、根幹的な防災・減災対策が喫緊の課題となっている。さらなる業界発展のため、経営体質の改善や人材の確保・育成が重要であり、優秀な技術者の処遇改善や現場の安全対策に取り組んでいく」と挨拶した。

続いて瀬戸下伸介秋田河川国道事務所長が祝辞を述べ、国土交通大臣表彰や秋田県知事表彰などが執り行われた。

受賞者は次の通り(敬称略)。



○国土交通大臣表彰

北林一成 (秋田土建株式会社)

○国土交通大臣顕彰

〔優秀施工者〕

小原康夫 (有限会社 環清工業)

佐藤 仁 (山岡工業株式会社)

小山周永 (創和建設株式会社)

高山尚登 (高山建築)

小林繁夫 (秋田土建株式会社)

畠山 恵 (大森建設株式会社)

佐々木吉一 (株式会社 村岡電業社)

渡部直喜 (株式会社 吉田建設)

○秋田県知事表彰

〔雇用改善優良事業所〕

株式会社 オオタベ

(代表 澤口美恵子)

○秋田県知事表彰

〔優秀建設現場従事者〕

小玉一夫 (株式会社 沢野建設)

戸松勝彦 (能代電設工業株式会社)

遠藤 淳 (大橋建設株式会社)

鈴木好春 (羽後電設工業株式会社)

森 浩 (森建設工業株式会社)

篠内俊光 (有限会社 宝建工業)

菅原房志 (株式会社 山脇組)

五十嵐暢 (株式会社 秋田デックライト)

○(一社)秋田県建設業協会会長表彰

〔雇用改善優良事業所〕

有限会社 成田組 (代表 成田俊彦)

広洋産業株式会社 (代表 佐藤均)

建退共秋田県支部

理事長表彰

普及・履行確保等の功績を称えて

勤労者退職金共済機構では、10月を「加入促進強化月間」と定めており、本制度のより一層の充実を図ることとしております。

その加入促進強化月間の一環として、本制度の趣旨である普及徹底、加入促進及び履行確保に積極的に貢献している建設業退職金共済制度普及協力事業所として、(株)加藤建設、朝日建設(株)が、理事長表彰を受賞。11月16日

開催された平成24年度秋田県建設雇用・構造改善推進大会において、村岡



淑郎秋田県支部長より表彰状及び記念品を伝達されました。

〔制度普及協力事業所〕

◎株式会社 加藤建設

菅原廣悦 (男鹿市)

◎朝日建設株式会社

小林郷司 (北秋田市)

工事情報共有システム 説明会

東北地方整備局発注工事における
業務効率化の推進を目指す

秋田県建設業協会は工事情報共有システム研究会（東北建設業協会連合会・東北建設協会・東北地方整備局で構成）との共催で、11月29日に工事情報共有システム説明会を開催。東北地方整備局発注工事に携わる企業の現場代理人・技術者45名が出席した。

工事情報共有システムは平成20年度以降、東北地方整備局発注工事において生産性向上・業務効率化を目的に試験的に導入され、平成25年度からは基本的に全ての工事において一般化する方針となっている。

説明会では最初に、東北地方整備局企画部の佐々木均技術管理課長補佐が「公共工事の執行に係る最近の動向及び業務効率化の推進について」と題し、整備局における総合評価落札方式の動向・統計や施工パッケージ型積算方式の内容、震災復旧・復興事業の取り組みなどを紹介。また、工事情報共有システムの全国での利用動向や監督員へのアンケート結果を提示し、今後の展開・方針について講話を行った。

続いて、システム提供会社の東北インフォメーション・システムズ(株)法人ソリューション事業部の八巻秀一氏が「事前協議と電子検査対応のポイント」として、事前協議において確認が必要な工事書類の内容から、電子検査対応のポイントとして工事書類の分類からシステムを活用した工事書類一覧の作成などを解説した。

※秋田県建設業協会では工事情報共有システム「工事監理官ASPサービス」の契約取次を行っております。詳細は協会Webサイト（<http://www.a-kenkyo.or.jp/>）のトップページから「工事監理官」のバナーをクリックしてご参照下さい。



(財)建設業福祉共済団から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋田・鉄 路の情景

Vol.
3

「レールの規格」

秋田内陸縦貫鉄道
笑内駅～岩野目駅

文と写真／加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター
取材・執筆歴／旅の手帖、WoodyLife、
ベンチャー・リンク、郷、ある他
海外取材歴／ドイツ、アメリカ、ブラジル
写真塾・写楽 主宰／写真教室、撮影ツアー
企画等



総延長94.2kmの秋田内陸縦貫鉄道は、戦前に国鉄阿仁合線として開通していた鷹巣～比立内間（阿仁合～比立内間は昭和38年の延長開通）、昭和40年代に国鉄角館線として開通していた角館～松葉間、そして三セク移管後に開通した比立内～松葉間と、区間によって建設時期が大きく異なる。

時代によって鉄道建設の手法も変遷してくるわけで、枕木も木製のものもあれば最初からコンクリート製の区間もある。自然の地形に逆らわずにくねくねと曲がりくねりながら走る区間もあれば、直線的に築かれた築堤の上を比較的高速で走り抜ける区間もある。

鉄道レールには様々な規格があるようで、大きく分けると、1mあたりの重量で表わす30kgレール、40kgレール、50kgレールなどがある。幹線などは最初から50kgレールを敷設するが、列車本数の少ない地方ローカル線の建設当時は30kgレールが主流だったようだ。レールは長年の使用で傷んでくるのでときどき交換をする。その交換の際には、ひとクラス上のレールを導入することが多い。重いレールのほうが丈夫で狂いが生じることも少なく列車の乗り心地が向上するという利点がある。一度に全区間のレールを交換するのは時間もお金もかかるので、毎年少しずつ交換していく。

そこで素朴な疑問。

すべてのレールの交換が終わらないうちは古いレールと新しいレールが混在することになる。30kgレールと50kgレールとでは3cm以上の高さの違いがある。その「段差」はどうするのか。車輪で乗り越えられる段差とも思えないし。

常々抱いていた疑問が内陸線笑内駅の近くで氷解した。規格の違う継ぎ目には段差を調節する専用のレールが使われ、高さの差は枕木の高さを下げることによってクリアしていたのだ！

乗客の気づかぬところで、乗り心地改良のためにたいへんな手間がかけられているものなのだ。

“ふ”健康的生活

あゆかわのぼる

1年くらい前から、日中でも原稿が書けるようになったのと、18年続いた信用調査会社の週刊情報誌の連載が終わったせいで、朝3時過ぎに起きる事はなくなったが、それでも4時半頃には床を離れる。起きて台所に行き、冷蔵庫の中の中仙産の杜仲茶をコップで一杯ゴクリと飲む。これで全身が目覚める。それから、ウォーミングアップ替りに迷惑メール消し、やがて原稿を書き始める。約3時間。7時過ぎにシャワーを浴びて食卓につき、コップ一杯の冷たい牛乳。その日、外に出掛ける用事がなく、しかも充実した朝仕事だったなあと思えば、ご褒美として350mlの缶ビール1個飲む。たまに500ml。

朝食は味噌汁とおひたしと松山納豆、それに小さなボダコー一切れにニンニク味噌漬2個で、御飯は小さめの茶碗に7分目2杯。ポップ茶を一杯飲んで、30分ほど時間をかけた食事を終え、歯を磨いてトイレで読書しばし。仕事部屋に入り、食事前に続いての作業。または小説を読む。

もちろん仕事に関係のある資料や本、雑誌などを読む事が多いが、大沢在昌が『新宿鮫』で直木賞を受賞したときに読んでから嵌まったのと逢坂剛のスペインものに夢中になって、二人の作品の虜になり、しばらく休筆していてこの間復活した横山秀夫は最初から。最近はその佐々木譲と今野敏が加わって、警察小説を読み耽る。

10時と3時にはまたポップ茶が出る。血糖値や血圧を下げるという友人の勧めで数年前から飲み始めているが、効果の有無は扱置いてこれが、まことに苦い。

昼食はうちでも外でもほとんど麺類。うどんは羽後町のあぐりこうどん、大内のきぬさや麺、能代うどんに稲庭うどん。このうち二種類くらいはいつでもである。ラーメンは、仕事先では美味しい所で食べる。それはいつか紹介した。自宅で食べるのはほとんどスーパーから買うが、3.11以降は被災地支援で、時々岩手県洋野町の「ホヤラーメン」や野田村の「塩ラーメン」を取り寄せて食べる。友人知人にお裾分けしたりもする。

自宅で麺を食べるときは、小さなグラスで焼酎のロックを一杯、じっくり時間を掛けて楽しむ事もある。そんなときは午後は仕事にならないので、本を枕にウツラウツラして時を過ごし、夕方を迎える。午後に原稿を書く事はよほど尻に火が付いていない限りしない。

縁側にルームランナーがある。運動嫌いで、体を動かすのがたいぎ。いつだったか、携帯電話についている万歩計をみたら300歩100メートルと出ていて肝を冷やした。10年くらい前に糖尿病と高血圧を宣告された。母と次兄

は糖尿病と合併症で亡くなり、三兄は数年前、脳梗塞で倒れた。ルームランナーは、主治医には有効に使っている、と言っているが、月に十数回、併せて1時間程度。ほとんど夕方、ちょっと上がって数分歩くだけで、そのままシャワー。済ませて晩酌。それが4時53分。民放のニュースが始まる時間。飲むのは焼酎かウイスキー。日本酒が好きなのだが、糖尿病にはよくないと聞かされてやめた。焼酎歴は40年余り。最初に飲んだのが福岡産の胡麻祥酎「紅乙女」。健康にもよいと教えられて量が増えた。健康と言えなくとも焼酎の「太陽の花」は糖尿病患者に優しいらしいのでこれも手放さない。

つまみは贅沢を言わない。ホッケの炙ったやつがあれば大満足。血の流れをよくすると聞いて、スライスした生の玉葱を毎晩4分の1食べる。梅干し1個。由利本荘市大内でグラパラリーフという中南米産の植物を栽培していて、これが血糖値を下げるという。当然マークした。

日本酒とビールは家でほとんど飲まない。焼酎はその代わり、いつも5〜6種類食卓の手の届く所に置いてその日の気分で選んで飲む。因みに甲類は飲まない。井戸水が美味しいのに蒸留水を飲む事はない。

ウイスキーはトリス。今から50年余り前、初めて飲んだウイスキーがそれで、この世にこんなに美味しい酒があったのか、と感動して以来飲み続けている。そのメーカーが、開高健や野坂昭如など、小説を読み耽り、尊敬する作家をCMに使っていたのでのめり込んだ。4ℓのペットボトル1本買うと1ヶ月ギリギリ持つ。ビールもそこ。

晩酌の量は一応決めておく。ウイスキーは水割りダブルで5杯、焼酎は中位のグラスでロック3杯。もちろん、これは下限。晩酌といえども疎かにしない主義。

1年くらい前から、“家庭内二次会”を始めた。下限の量に達したら場所を居間に移し、今度は少しグレードの高い、焼酎なら720mlで2,000円くらいのやつ、ウイスキーなら安めのスコッチに代えて、テレビを見ながらゆっくり飲む。そのうち眠くなるので、寝室に向かう。8時半過ぎだ。布団に入れば即、白河夜船。夜中に2度ほどトイレに起きる事もある。トシだなあ。

ビールは朝ちょっと飲むが、日本酒はほとんど家では飲まない。しかし、好きだから、なにかの会やパーティーで最初に口にすると、それが最後まで、という事がよくある。たぶん、普段飲まない反作用なのだ。

いつだったか、パーティー、二次会、その流れで立ち寄った洒落た居酒屋に、私が名付けた酒が置いてあって720ml瓶1本をペロリと空けてしまった。

ああ、これが人生。

“酒なくて何の己が桜かな”。